

モデル事業名	地域資源活用型癒しのばんどう門前通りの形成と担い手育成事業
活動団体名	特定非営利活動法人 まちづくりサークル大麻
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス) http://www.tv-naruto.ne.jp/genkinamati-ooasa/index.html
所属/ 担当者名	特定非営利活動法人 まちづくりサークル大麻/理事長 三浦啓親
連絡先	☎088-689-3360 E-mail bando-kou@tv-naruto.ne.jp
活動地域	鳴門市

● 活動地域の概要

鳴門市大麻町は、人口 12,634 人、世帯数 4,767 件で、最近 10 年間の推移は人口が 4.6%減少、世帯数は 9.2%増加し、核家族化が進んでいる。ばんどう門前通りを含む 6 自治会のニーズ調査で、65 歳以上の世帯が半数を占め、高齢化が進んでいる実態が明らかになっている。

[位置図]



[街角屋ギャラリー前] ばんどう門前通り



街角屋 [一番さんの縁どころ] 実施前



● 活動地域の課題

当板東地区中心街は、四国霊場第一番札所の門前町であり、四国遍路の第 1 歩を踏み出す地であることから、かつては多くの店が立ち並び、賑わいのある地域であったが、モータリゼーションの進展や、隣町への大型量販店の出店等による影響を受け、商店街の客足は激減し休廃業が相次ぐなど衰退が著しい状況にある。

こうした中、平成 19 年度において都市再生モデル調査を実施するとともに、地元商店街の構成員の変化に対応して、商店街の名称を「ばんどう門前通り」と改称したところであり、平成 20 年度は、「新たな公」による創生支援モデル事業の選定を受けて、ニーズ調査や担い手育成の活動に取り組んでいる。通りコンセプト「住んでよし訪れてよし」をモットーに、エコな通り景観の整備、お接待サロンの活用と、唯一の高齢な踊り師匠の健在な今、郷土民謡 [板東音頭、四季の板東] を半世紀ぶりに復活させて、担い手育成に組み込み伝承したい。さらに女性層の参加促進による盛り上げを図り、地域の活力を高めていきたい。

通りの関係主体と協働し、街角屋「一番さんの縁どころ」と「ばんどう交流館ユタカホール」を活用して、地域の交流拠点化をめざすことが、課題であると考えている。

● 活動の内容

・平成 20 年度

活動Ⅰ 通りコミュニティ活動力アップと担い手育成 (1)コミュニティーニーズ調査と研修の実施 (2)ごみ環境活動 (3)日常管理マニュアル	活動Ⅲ 通り景観の整備と試行 (1)板塀化の調査・試行 (2)電柱カバー・表示板の取付け (3)グリーンラインの試行 (4)緑化用植木鉢試作
活動Ⅱ 通りの核としてイベント広場を開設するための調査研究 (1)イベント広場の企画	

・平成 21 年度

活動Ⅰ ばんどう交流館ユタカホールの活用---交流するまちの拠点づくり (1)当地の民謡 [板東音頭・四季の板東] を再発掘し、保存し育成したい。 (2)歴史の街にふさわしい邦楽イベントの開催 (3)小学校の児童による「グリーン展覧会」	活動Ⅲ エコな景観づくりと日常活動の仕組みづくり (1)緑化用植木鉢 [地元特産の大谷焼] への植栽と鉢作り (2)アドプトプログラムによる植木鉢、「緑のカーテン」管理の仕組みづくり
---	---

活動Ⅱ 街角屋「一番さんの縁ところ」の開設支援と交流-お接待文化の拠点づくり
 (1)街角屋の古民家風の板壁化
 (2)街角屋「一番さんの縁ところ」の開設支援

活動Ⅳ 地域資源活用の交流プロジェクト
 (1)板東エリアの「ばんどうまち歩きマップ」と情報誌「まちかど新聞グリーン編集局」づくり
 (2)休眠店舗の調査プロジェクト

● **活動の成果**

・平成20年度

ばんどう門前通りのニーズ調査では、通りを「線」ではなく「面」として考え、周辺地域の6つの自治会にも協力を求め実施した結果、「買い物不便さ」「安全に安心して歩ける道路環境」「くらしに必要なこと」などが数多くの数値を示していて、大きな課題となった。今後は、連携主体と協議・連携して取り組むべきことが必要であると考えている。

「遍路道の道標であるグリーンライン」(写真右)「落ち着いたきのある空間作りのための板壁化」「通り名を表記した電柱カバー表示板」「通り緑化用の大谷焼植木鉢」は、一番札所の門前通りとしてのイメージアップとなり、訪れるお遍路さんだけではなく、まちの人々にとっては板東らしく誇れる景観の通りになりつつあると好評である。



【グリーンラインとお遍路マーク】

・平成21年度

平成20年度に実施したお遍路さんの道標「グリーンライン」が、小学校児童の目にとまり、総合的学習に取り上げられ、学習内容を「グリーンライン新聞」として発表している。児童たちの活動に刺激され、通りの情報発信として「まちかど新聞グリーン編集局」を年4回発行することと決め、今年度は秋号(10月)冬号(1月)を発刊することとした。コミュニティのネットワークづくりに役立つものと期待して取り組んでいる。

また、続いて平成22年1月~2月頃に、小学校の児童の手づくりによる「グリーン展覧会」が、ばんどう交流館ユタカホールを会場として開催される運びとなった。

ばんどう門前通りの関係主体と連携した接待所「一番さんの縁どころ」が10月に完成し、23(土)~24(日)の両日にイベントを実施し、地元の新報やテレビで大きく報道され、鳴門市広報の表紙写真に採用されるなど反響は大きかった。(写真右)



【広報なると十一月号の表紙】

● **今後の課題及び展望**

・課題

接待所「一番さんの縁どころ」の後継的なイベントは難しいが、隣接する街角屋ギャラリーとタイアップした企画を進めることが課題となっている。

ばんどう交流館ユタカホールの活用は、これまで街角ガーデニング「コケ玉作り」やご当地民謡「四季の板東」踊り教室は、定員を上回る参加者があり盛り上がったが、男性世話人に働きかけた「カラオケ同好会」は実現できなかった。

通りの中核活動体をどう育てるかが大きな課題となっている。

・展望

次年度以降の「ばんどう門前通り」活性化事業は、過去の調査、景観づくりの段階から一歩進めて、コミュニティビジネスとしての空き店舗活用事業に取り組むべきと考えている。

通りの玄関口であるJR板東駅前の空き店舗を「くらしの店」と「お休み処」として開設し、地域のくらしの利便性を高め、さらに来訪者へのサービス機能を充実させることになる。

次に、わが街は、史跡板東俘虜収容所があり、ベートーベン第九アジア初演の地として、関係主体の板東地区自治振興会と共に「第九バンドーフエスティバル」(仮称)のイベントを実施することの企画検討を進めている。

さらに、今年度からスタートしたコミュニティ紙「まちかど新聞グリーン編集局」(写真右)を年4回発行し、通りのコミュニティ力の向上を図っていきたい。



【まちかど新聞グリーン編集局】